

経営探訪

伊藤建友株式会社

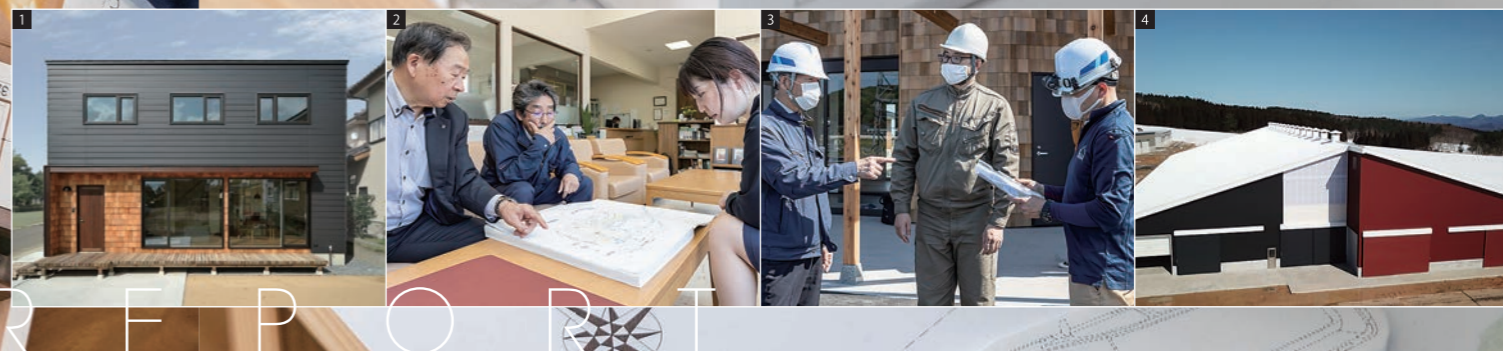
今日の感謝を明日への軌跡に
地域と共に歩む建設会社



伊藤建友株式会社
 [本社]
 〒015-0075
 秋田県由利本荘市花畑町一丁目116番
 TEL 0184-24-3360
 [郡山営業所]
 〒963-0541
 福島県郡山市喜久田町堀之内字釜場西18-4
 TEL 024-959-6899
 http://www.itokenyu.com/

概要
 木造／鉄筋コンクリート造／鉄骨造／
 土木一式工事／宅地建物取引業
 介護事業(グループホーム・小規模多機能ホーム)・
 岩盤浴事業部

代表取締役
伊藤 佐喜男
 いとう たきお



営業員0の原動力、“感謝報恩”

「お客様に私たちを選んで頂いたことへの感謝の心として、その恩に報いるために存在する会社でありたいと思っています」。

社是は“感謝報恩”。何よりも人のために在ること、と語るのは伊藤建友株式会社の伊藤佐喜男代表。1971年に21歳の若さで独立、1980年には同社を法人化させ、昨年度の売上は12億円を超える企業に成長させた。「建物は芸術」との考えで大胆な個性と創作技術を信条に、一般住宅から公共工事、民間の大型物件、介護事業を事業の柱に据える。驚くのは、複数の事業を幅広く展開しているにもかかわらず、営業員が一人もいないことだ。

「建設業では自社での設計・施工を標準としているため、現場を熟知している技術者と職人が中心。だからこそ、技術力と提案力を武器にお客様の要望に合わせ、高品質・低コスト化を実現できます」。

他にない個性的な設計と丁寧な施工に、仕事は指名され途切れることはない。一級・二級建築士合わせて19名が在籍し、そのうちの4名は女性建築士。自社大工15名も在籍する。また、毎年地元の高校生を新卒採用し、適正を見極めながら大工職人と施

工管理系の技術者を育成し、本人の希望に沿って建築士などに挑戦できる環境を整えている。

ひとりひとりが信念をもち自身を高めるために行動する社風が後押しし、新技術の導入や開発にも貪欲だ。阪神淡路大震災をきっかけに開発した耐震構造“ハイテック構造”を始めとし、最近では超省エネ性能にも力を入れる。これは、住宅のエネルギー消費量をヨーロッパのゼロエネ並みに減らすことを目指す「Dotプロジェクト」に共感した社員が、実際に本場ヨーロッパに視察に赴き北欧の住まいづくりを研究し、ノウハウを蓄積してきた。その成果は大きく、現在同社では国の断熱基準の約1/2の超省エネ性能を有した北欧スタイル居住建築を可能とする。

“人”がつなぐ縁

「どんな業種も事業は“人”で、人と人との関わりです。柔軟な創造力で建物の芸術性を追求し、過去を振りかえった時にその足跡が消えず残るように日々努力し続けたいと考えています」。

伊藤代表の歩んできた道はまさに“事業は人なり”そのものだ。それは直接つきあいのある社員やお客様だけに留まらない。

東日本大震災の際には“誰かの役に立ちたい”と被災地を訪れた。

デイサービスセンターが数ヶ所津波で被害を受け困っていることを知り、気仙沼にいた友人の紹介で介護施設をはじめ保育園などの復興工事を進めた。後には「秋田復興支援協議会」を発足し、復興住宅39棟の支援工事を行うなど支援の輪を広げながら活動を拡大していった。

「“どうしたら喜んでもらえるのか”を常に考えています。介護事業を始めたのも、私の母が病気で倒れた当時、今のような充実した施設がなく大変苦労したからです。いつか介護の分野に携わりたいとずっと思っていました」。その思いを実現できたのも、また“人”との縁がきっかけだった。長い付き合いのあった知人から90坪の住宅の使い道の相談を受け、グループホームを開所。以来、18年、現在では2市5カ所の施設運営を行っている。



創業50周年を迎えて

「もちろん課題もあります。昨今マスコミで盛んに取り上げられているように介護業界は慢性的に人材が不足しています。地域の建設市場も年々縮小傾向にあり、新しい市場の開拓に力を入れていかなければならないでしょう。新型コロナウイルスの影響も避けては通れない。今年、50周年の節目を迎えた同社だが、伊藤代表は過去最大の危機感をもって市場を注視する。一方で、地域に根ざしてきた企業の責任を果たすべく尽力する。

「建設業はすそ野が広く、ひとつの工事で数十人の社員や20業種以上の協力業者が必要になります。特に冬季など仕事が少ない時期はありがたいと言っただけですし、多くの工事関係者のためにも受注責任は重大です。地域密着型の介護施設でも、地域の方と深く関わり認知されるように努めています。今後も、共存共栄の精神で、感謝と信頼される会社になっていきたいですね」。

“人様のお役に立てなければ存在価値がないと思っています”と謙虚に笑う伊藤代表だが、50年前に会社を興したときの初心は忘れない。人と出会い、想いを繋いできた事業の足跡は確かな道筋となって、また新しい街の未来をつくり上げていく。

1 北欧スタイル居住。課題は低コスト化で更なる研究に取り組む。
 2 公共工事10%、住宅35%、民間工事35%、介護20%の受注構成。

3 自社での設計・施工が標準。丁寧な仕事ぶりが評判。
 4 農事組合法人鳥海高原花立牧場のロボット牛舎。2020年3月完成。